

2023年3月期 第3四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2023年2月14日

注意事項

2017年4月1日に株式会社東芝からメモリ事業を会社分割し（旧）東芝メモリ株式会社（以下「旧TMC」）が発足しました。2018年6月1日にBain Capitalを軸とする企業コンソーシアムにより組成される株式会社Pangea（以下「Pangea」または「新TMC」）が旧TMCを買収したのち、2018年8月1日に新TMCが旧TMCを吸収合併し、社名は東芝メモリ株式会社となりました。また、2019年3月1日に単独株式移転により東芝メモリ株式会社を完全子会社とする東芝メモリホールディングス株式会社（以下、「TMCHD」）を設立しました。2019年10月1日に当社はキオクシアホールディングス株式会社に社名変更しました。

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2023年3月期第3四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

[億円]	23年3月期 2Q	23年3月期 3Q	対前四半期
	売上収益	3,914	2,782
営業利益	806	▲933	▲1,739
マージン	21%	▲34%	▲54pt
当期純利益	348	▲846	▲1,194
マージン	9%	▲30%	▲39pt

補足情報

減価償却費及び償却費 ²	1,013	1,063	+50
不純物を含む部材を起因とする操業影響額 ^{3, 5}	-	-	-
PPA影響額等 ^{4, 5}	▲55	▲57	▲2
法人所得税費用	131	▲231	▲362

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費及び償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第3四半期におけるEBITDAは、営業利益▲933億円に減価償却費及び償却費1,063億円を加算した130億円となりました。
3. 2022年1月下旬に発生した3次元フラッシュメモリ「BiCS FLASH™」の特定の生産工程における不純物を含む部材を起因とする四日市工場と北上工場での操業影響による仕損品に関わるコスト、未稼働期間の製造固定費を含む営業利益への影響額です。
4. 過去の企業結合に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額及び2019年6月に四日市工

場で発生した停電影響額です。

5. 営業利益から不純物を含む部材を起因とする操業影響額及びPPA影響額等（以下「Non-GAAP調整額」）を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第3四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益▲933億円からNon-GAAP調整額▲57億円を除外した▲876億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益▲846億円からNon-GAAP調整額▲57億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて▲806億円となりました。

ハイライト (1/2)

足元の実績及び動向

	23年3月期 2Q	23年3月期 3Q
出荷量 ¹ (QoQ)	20%台前半の 増加	10%台半ばの 減少
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	10%台前半の 下落	20%台前半の 下落

1. 記憶容量ベース

2. 当四半期の開示から、当社グループの在庫管理方法の改善により、出荷量と販売単価の算出方法を変更し、23年3月期2Qについても記載を変更しております。

- 第3四半期連結会計期間は、PC、スマートフォン市場の低迷に加え、データセンター向け顧客の在庫調整により、出荷量が減少。需給バランスの悪化によって販売単価が大幅に下落した結果、前四半期比で減収となった。
- 営業利益は、販売単価下落とこれによる棚卸資産評価減の影響に加えて、生産調整の影響（315億円）もあり、前四半期比で大幅な減益となった
- 期中平均為替レートが円安方向に推移した結果、ドルベースの販売単価は20%台半ばの下落と円ベース以上の下落幅となった

市場動向及び見通し

- 経済の先行き不透明感から客先が在庫調整を継続しており、フラッシュメモリ需要が大きく落ち込んでいる
- PC及びスマートフォン向け需要は、経済状況による影響で低迷が続くが、今後の客先の在庫水準の正常化と中国の経済活性化に伴い、今年後半以降の回復が見込まれている
- データセンター・エンタープライズSSDの需要は、客先の在庫調整と企業のIT投資抑制の動きを受けて急激に減速している
- 足元では厳しい状況が続くが、フラッシュメモリ市場の中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない
- 市況悪化局面への対応として需要動向に合わせた生産調整を継続するとともに、継続的な製造コストの低減と、より一層の販管費のコントロールに取り組むことで収益性の改善に努める

KIOXIA